

<株式会社エフエム東京 第381回放送番組審議会>

1. 開催年月日:平成 23 年9月6日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内0名)

◇出席委員(6名)

青池 慎一 委員長	横森 美奈子 副委員長
渡辺 貞夫 委員	内館 牧子 委員
香山 リカ 委員	西田 善太 委員

◇欠席委員(1名)

秋元 康 委員

◇社側出席者(11名)

富木田 代表取締役社長
唐島 専務取締役
黒坂 常務取締役
石井 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長澤 常勤監査役
小林 執行役員編成制作局長
延江 編成制作局局次長 兼 番組制作部長
森田 編成制作局局次長 兼 編成部長
平岡 番組制作部プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0名)

【事務担当 小林放送番組審議会事務局長】

4. 議題:

番組試聴「シンクロシティ～東日本大震災報道特別番組」
3月14日(月) 第一部 16:00～19:00 第二部 25:00～29:00 放送
上記特別番組のダイジェスト版 約 20 分

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎ 6月聴取率調査結果について

2011年6月度の聴取率調査結果が7月12日に発表されました。(調査期間6月13日～6月19日)

今回はメインターゲットであるM1F1層(20～34歳男女)、さらに、30代男女、40代男女とも数字を伸ばし、12～59歳男女個人全体では、NHK、中波を含めた在京全局中2位という結果でした。

また、2月、4月の調査に引き続き、男女12～59歳のリーチ(1週間に当該局を5分以上聴いた人の割合)については、全局中首位となりました。

男女15～24歳、男女10代、高校生、大学生という若年層の聴取率は、いずれも首位となっております。

ラジオ局全般については、4月調査に続き全局平均聴取率合算値(セツ・イン・ユース)が上昇し、大震災以降のラジオメディア再評価の動きが数字でも証明される結果となりました。

◎ 人力発電自転車による史上初の東京タワーライトアップ企画について

東京タワーを人力発電自転車による電力だけで点灯させる、リスナー参加型挑戦プロジェクト「東京タワー人力ライトアップ大作戦ー希望の光を照らせ!ー」を実施致しました。

東日本大震災以降、電力不足による節電の為に東京の街は明かりを落とし、東京タワーも、今年の半分程度の消費電力でライトアップしています。それに加え、原発による放射能の見えない脅威も重なり、東京は、電力も、人々の気持ちも“マイナス15%”となっております。

そんな今だからこそ、東京のシンボルである「東京タワー」を以前のように光輝かせ、東京を少しでも元気にしたい!と考え、TOKYO FMの各パーソナリティーやリスナー、及び著名人ゲストたちが一丸となって人力発電自転車をこぎ、8月23日(火)夜8時8分の完全ライトアップに挑戦しました。

今回、東京タワーを約30分照射するのに必要な電力は5500Whということで、4日前から蓄電を開始。前日の22日までに、約1400人のリスナーが番組の呼びかけにより蓄電に参加。8月23日の当日は、午前11時30分～午後8時30分の9時間に渡り、『シナプス』パーソナリティーのやまだひさしを中心に、TOKYO FM平日各ワイド番組のパーソナリティーが一丸となり、スタジオバスを東京タワー前に持ち込んで公開特番を実施致しました。9時間の放送を通し、

蓄電自転車を漕ぐために集まってくれたリスナーの数は、約 3600 人。

その他、つるの剛士、AAA、AKB48（宮澤佐江、峯岸みなみ）、EXILE の MATSU、電撃ネットワーク、HY などの著名人ゲストも参加し、最終的に蓄電出来た電力は、4935Wh と予定量には達しませんでした。運命の照射時刻、8 時 8 分に照射を開始。結果、無事 30 分の照射に成功致しました。



またライトアップの様子は、WEB 動画の「U-STREAM」を通じて、ネット配信され、照射時刻には、約 3000 試聴され、大変大きな反響となりました。

(※twitter の反響、一部抜粋 → 別紙参照)

◎10 代アーティスト限定の夏フェス“閃光ライオット 2011”について

『閃光ライオット』とは、「SCHOOL OF LOCK!」が中心となって開催する、10 代のアマチュア・アーティストのための“夏フェスプロジェクト”です。応募総数 1 万組の挑戦者達が、夏フェスの出場権をかけた“音楽”をぶつけ合う、いわば音楽の甲子園です。

4 年目を迎えた今年は、東日本大震災の影響も考え、当初開催するか否かの協議を繰り返してまいりましたが、(特に被災地からの)開催を切望する 10 代リスナーの声に背中を押され、若き 10 代の挑戦する姿勢が日本全国に力を与えると感じ、開催を決定しました。「今こそ鳴らそう！終わらない歌を。始まりの歌を。」というスローガンを掲げ、1 万組の挑戦者から勝ち抜いた全 10 組の 10 代アーティストが、9 月 4 日(日)に日比谷野外音楽堂で行われた本戦に出場を決め、熱戦を繰り広げました。日比谷野音に集まった観客数は、予想をはるかに超え、延べ 1 万人余りとなりました。また今年は、特別応援ガールとして「北乃きい」を起用し、8 月中旬から首都圏や出場バンドの地元駅などでオリジナルポスターの掲示も行われております。



また、共同主催社である KDDI の協力のもと、決勝大会の様子は音楽ストリーミングサービス「LISMO WAVE」や J : COM を始めとする全国のケーブルテレビにて生中継されました。

今年の頂点に輝いたのは愛媛県出身の16歳ラッパーのPAIGE（ページ）。自作の音楽を動画サイトにアップロードしているだけで、全くライブ経験が無い少年が、日比谷野外音楽堂に集まった観客を前に圧巻のパフォーマンスを披露し、見事グランプリを獲得しました。（優勝賞金100万円と優勝旗が贈られました）。



◎「防災の日」ワンデー展開に関して

東日本大震災からおおよそ半年にあたる9月1日の「防災の日」、TOKYO FMでは朝から夕方までの各ワイド番組を縦断し、3.11を様々な立場の目線で振り返る防災の日ワンデースペシャルを展開いたしました。

当日の反省点や、活かされたことをリスナーの声を集めて検証すると共に、今後に向けて動き出した企業や自治体、学校や保育園などの新たな対策のレポートを交え、いま本当に知っておかなければならないことを改めてお伝えしました。（※別紙にて、朝日新聞記事回覧。）

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

- セッツ・イン・ユースが上昇したそうだが、どのぐらいか？
- 今回は、トータル7.1、その前が6.8、震災前は6.4だった。
- リーチが全局中首位になった、ということは、TOKYO FMに接触した人が多いということ。これはリスナー増加の潜在可能性を示す重要な数字である。
- 2月ぐらいからリーチについてはいい数字を出している。今後はこれをいかに継続聴取につなげるかが課題。

- 1400 人が自転車をこいだというのはすごい数だと思うが、周囲の若い世代に話すと、“知ってたら行きたかった”という反応が多かった。このイベントをもっと大きなうねりにできる方法があったのではないか？
- 1400 人というのは前日の数字で、さらに当日 3600 人が参加したので、あわせて 5000 人が参加してくれた。

- 23 日に点灯した時、この電気は人力で作った、ということは伝えたのか？
- TOKYO FM の特番で伝えるとともに U ストリームで生中継も行った。事後パブではあるが新聞・テレビなどの取材も多数入った。

- 5500 ワットの電気を作るのにどのぐらい費用がかかったのか？
- 自転車やキセノンライトのレンタル料、人件費、テントの設営費など数百万。東京タワーみたいな大きなものを照射するのでこのぐらいかかった。

- 私の世代の自転車の照明は、まさに人力でこいで点灯するものだったが今の若い世代にとっては、電気をおこす原体験ができた、ということで、とても興味深いイベントだと思う。
- 3 分間必死にこいでも、たった数ワット。当日は 3600 人が汗だくでこいでいた。最後に点灯したときは、みんなでやればできないことはない、という感動を共有できた。
- 今回は新聞・テレビの取材もとても多かった。フジテレビは 1 日中密着取材していたが、大きな事件があったため残念ながら紹介されなかった。

- 土曜の 24:30 の水樹奈々の番組などがあるが、反響はどうか？
アニメやアニソンプームの中で、脚光を浴びているのか？
- 有名なアニメ声優はほとんどがラジオ番組を持っているが、他局も含めて、ほとんど深夜に放送していることが多い。ファン層が深夜放送を好む傾向がある。この番組では当社の開発部も一緒に組んでグッズやコンテンツも作っている。
- 村上隆さんも深夜 3 時、椎名へきるは 4 時半。土曜の深夜～朝にかけては、コアなファン向けの番組を編成している。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】「シンクロシティ～東日本大震災報道特別番組」
パーソナリティ:堀内貴之

【放送日時】3月14日(月) 第一部 16:00～19:00 第二部 25:00～29:00 放送
上記特別番組のダイジェスト版 約 20 分

【番組概要】

TOKYO FM では東日本大震災発生以降、1週間に渡り、すべての時間帯においてCMをカットし報道特別番組を実施いたしました。震災発生後、翌12日の夕方までは一次情報のみをお届けしましたが、その後は、情報と共に全国のリスナーから寄せられた被災地の方々へ向けたメッセージと音楽を交えた放送を行いました。

今回、ご試聴いただく「シンクロシティ」(月～木曜 16:00-18:45 東京単)は、通常、東京ローカルの夕方ワイド番組として放送していますが、3月14日(月)、震災発生から3日目に「シンクロシティ～東日本大震災報道特別番組」として全国ネットに緊急拡大し、【第1部】16:00～19:00、【第2部】深夜 25:00～29:00と、7時間にわたる特別番組としてお送りした放送回です。

番組の大半は、全国のリスナーから届けられたメッセージとリクエスト曲です。震災直後ということもあり、ひたすらに「伝えたい想い」のみで構成された番組です。また、精神科医・香山リカさんに電話でご出演いただき、心の緊張を解す方法などをお届けしたほか、急遽スタジオに駆けつけて下さった渡辺貞夫さんによるレクイエム『I'm With You』の生演奏なども交えてお送りしています。

活動報告ではお伝えしておりましたが、震災から約半年が経過した今、改めてご試聴いただきたく選定いたしました次第です。

堀内貴之:青山学院大学を卒業後、雑誌の編集者を経て、世界各国を放浪、帰国後にTOKYO FMで「NISSAN あ、安部礼司 ～beyond the average～」の企画・原案に携わる他、ラジオパーソナリティとしても番組を担当。プロのDJではないが、常日頃、人々の代弁者を目指し番組に向き合っている。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

- これを聴いて、実際に訪れた被災地のがれきの山が思い浮かんだ。
3日後にこれだけの番組を作ったのは大したものだった。
パーソナリティの堀内さんも、言葉を選んで語っているのがわかる。
特に今は、西や南のほうは震災の意識が薄れてきている。ストレートに「原発の事故は気になるけど、震災と津波は忘れてきている」と言った知人もいる。
北や東の人間であっても日々うすれていく。
いま、これを聴いて、すごく心に染みた。
まさに自粛がスタートした時期だったので、香山さんの言葉にすごく救われた。
また、元気出せ、元気出せ、という曲だけでなく、渡辺貞夫さんのレクイエムを切々と流されると、逆にとても安らいだ。
震災の意識がうすれていく中で、こういう番組こそ、再放送できないだろうか？

- あらためて自分の音を聞いて、「思いが足りないな」と、情けない気持ちだった。
時間が経って、客観的にこの番組を聴いて、もちろん元気になって欲しいという番組作りではあるが、あの悲惨事の状況を考えると、しゃべりに少し白々しい雰囲気を感じた。ひとつごとのような印象だった。
私の演奏も同じ。“現場に行っていない”ということの差が出たんじゃないかと思う。
番組名のシンクロシティはどういう意味か？

- シンクロシティから発生した造語。通常は、スタッフが東京の街に出て、市井の人にマイクを向けてお話をうかがっている。リスナーは、放送を通じて、顔の知らない誰かと気持ちがシンクロするのではないか、という意味でこのタイトルをつけた。

- こういう番組でいわゆる「専門家」の話聞くのは難しいと思った。私が伝えたかったのは、心のケアは急ぐ必要はないこと。被災者の方は、衣食住と安全の確保。被災地以外の方は、日常生活を続けたほうが良いということだった。もっと短い言葉で言ったほうが良かったかもしれないが、一応「専門家」として登場しているので、「最近の研究では・・・」という論拠を示したりして、説明的になってしまう。そうすると、こういう非常事態には伝わりづらい。それに比べて渡辺先生の演奏はストレートに胸に染みた。音楽の力はすごい。ラジオ番組において、そういう「音楽」の力を活かす部分と、専門家の解説のバランスを考えなければならないと思う。さらに「専門家」がラジオというメディアでどういう役割を果たすべきかについても、私も、番組の作り手側も考えなければならないと思った。

- 半年たって、この番組を改めて聴く意図は？
- ちょうど震災から半年たったことと、実はまだ正式に公表できないのだが、民間放送連盟の賞が内定したため。
- あの時期、あの瞬間に、自分がどういう気持ちで聞いていたかを思い出した。
全体的に堀内さんは、淡々と、よくこなしている。
ラジオと雑誌では距離感が違う。雑誌は作ったものが出るのに一ヶ月かかる。
映画はちょうど今ぐらいに公開されている作品が必ず 3.11 の影響を受けている。
でもラジオは、地震の後、すぐに放送しなければならない。「よくしゃべれるな」という感覚がある。口火を切ることの難しさ。何も無いところから何かを発言することが難しい期間が一ヶ月半ぐらい続いたから、堀内さんはよくがんばったと思う。
阪神大震災の時、ある放送局がクラシック音楽を流す決断をした時のディレクターのインタビューを聞いたことがある。当時は、音楽を流すのが「企画」じゃなく「決断」だった。あれがあったから、みんなこうやって音楽を流せたのだと思う。
この番組で流れた寅さんで泣いた人もいると思う。
- 前委員同様、なぜ今この番組を試聴するのか疑問だった。
半年後の今この番組を聞くと、どういうところが気になるのか、を言うべきだと思い、そういう聴き方をした。
堀内さんの声が軽い感じがする。プロのDJではないそうだが、逆にプロっぽい印象を受けた。そのわりに敬語ができていなかったり、「一生忘れない曲」というコメントが2回も続いたり、表現がおざなりだった。
個人的には寅さんにも抵抗があった。音として聴けば良いが、そもそも寅さんは、いい加減で、いつも騒ぎを起こすようなキャラクターなので、この状況に寅さん？と疑問に思った。音楽はリックにも意味がある。「さくら」は卒業生に向けた曲だと思うが、桜が散る＝死をイメージする人もいたかもしれない。
この番組の入賞の理由は、震災直後の局としての「対応力」が評価されたのか、それとも「番組の内容」なのか？
- 民間放送連盟賞の生ワイド部門・東京地区での入賞が内定している。
審査では、堀内の素直なことばに好感が持てる、リスナーのメールをきちんとすくい上げている、という評価だった。
他局も震災直後の特番をエントリーしていたので、対応力という意味では、どの局も似たような評価だったと思う。その中で当社が入賞したのは、番組の内容も評価されたと解釈している。
- この特番は、【第1部】16:00～19:00、【第2部】深夜 25:00～29:00 となっており、編集が1部、2部またがっているので、「一生忘れない」というコメントが重複した。

- この番組を、当時のリスナーとして聴くのか、半年たつての検証として聴くのか、2つの意味があるが、審議会としてはこの両面を含んでいると思う。
- 何かが起きた時に、どういう先生やゲストを、どういうカタチで登場させるのか、やはり局として考えておかなければならない……そのことを教えてくれている。
- この番組は、「音楽を提供した」ということが重要なポイントだと思う。
- 多くの人がテレビ映像に衝撃を受けていた中で、癒しとなり、心を取り戻す機会となった。どの局からも、音楽や娯楽が無くなってしまった中で、14日に音楽を提供してくれたのが良かった。3.11以降、メディアが娯楽機能を完全に失っていた。国民はメディアの娯楽機能を軽視しすぎた部分がある。
- やがて、震災時におけるメディアの娯楽機能は、検証されるべき重要な課題になると思う。
- そういう意味で「音楽を提供してくれた」ことは、何よりも素晴らしいし、この時期にこれだけの番組を作れたことは、日ごろのTFMのスタッフの能力が発揮されたのだと思う。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「JOGLIS SUNDAY」
9月25日（日）5：00～7：30 放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会10月4日（火）に開催することを決めた。